

2016 年度春学期 日本理解に関する科目・授業概要

	授業科目名 Subject	担当教員 Lecturer	曜日・曜・教 Period, Classroom	目標 Aim	内容とテキスト Course outline, Textbook
日 本 理 解 *	日本理解A (教育)	戸田 孝子 (とだたかこ)	木4 C202	<p>① にほんご が しょきゅう の がくせい： にほん の しょうがっこう の ふんいき の なか で スピーチ の れんしゅう を します。 クラスメイト の はっぴょう を きいて りかい できるように チャレンジ します。じぶん の かんがえ の ポイント を にほんご に ほんやく します。</p> <p>② 日本語が、中・上級 の学生： 日本の学校の「総合学習」の授業の雰囲気体験し、 いくつかの課題発表を通して、自己形成に関わる 文化、理想とする人間像や評価についての比較考察 を深めていきます。</p> <p>③ 教育を専門とする学生 このクラスは、多様な専門、多様な日本語レベルの 学生が受講します。現代の日本の小学校・中学校で は、このような多文化共存の学級経営や授業運営の 技術が教員に必要とされています。国際教育選修の 日本人ボランティア学生と一緒に、多様性の中での 新しい教育のアイデアを考えていきましょう。 授業をより良くするために、意見や相談は、自由に できます。7月の発表は、模擬授業の形式で行って も構いません。</p>	<p>【内容】 この授業は、留学生の専門や日本語のレベルに関係なく、一緒に学びたい人は誰でも受講できます。 日本人の国際教育選修のボランティア学生も一緒に参加します。 「比較文化と教育」をテーマに、実践的な演習を行っていきます。日本の初等・中等教育のカリキ ュラムにある「総合学習」の方法を授業に取り入れ、日本の小学校の学級のような雰囲気の中で、 受講生が、体験を通して学ぶことを主眼としています。「教育」は、その文化を共有する人々の「理 想とする人間像」や、それへ向かっての「学び方」、また、「評価の仕方」に深く関わってきます。 このことを、クラス活動を通して学んでいきます。このクラスの名前は、「1年桜組」です。 初回は、日本の小学校の「入学式の日の学級」を、皆で製作し、一緒に写真撮影します。</p> <p>① 4月の発表：「私の名前」 自分の名前を母語で黒板に書き、そこから短いスピーチをします。 名前の意味、名づけのエピソードなどを通して、文化紹介の扉を開いていきましょう。</p> <p>② 5月～6月の発表：「私の育った環境」（母国の学校、自然、家族、活動などのウェブサイト を紹介するとともに、自分が学校時代に、「大人たちが、理想として、期待された人間像」や「褒 められた行為」などについて、スピーチします。</p> <p>③ 6月～7月の発表：「私の希望」、「私の将来」、「将来の職業に向けて」など、自分の描く将来 のビジョンについて、自由形式で発表します。マインドマップを見せて説明してもよいです、 パワーポイントのプレゼンテーションでもよいです。教員の方、教育を専門とする学生は、自 分が将来取り組んでみたい授業を模擬授業として発表するという形でも構いません。</p> <p>各授業の初めの部分は、発表準備の時間とします。この時間に、日本人ボランティア学生に相談 することができます。③の発表では、一人一人の発表者に、クラスメイト全員から一言ずつ、将来 へ向けての応援や激励のメッセージを寄書されたものが贈られます。日本の伝統的な寄書です。</p> <p>【評価方法】 3つのシート提出による：(しょきゅう の がくせい には とくべつ シート が ある) ① 出席シート (授業に出席し、クラスメイトの発表を傾聴した記録) ② 発表シート (自分の発表についての記録、準備し伝えたかった点、発表後の振り返り) 学期末まとめシート (授業に参加して得られた「比較文化と教育」についての新知見や考察)</p>

<p>日本理解 C (人文)</p>	<p>有澤知乃 (ありさわ しの)</p>	<p>火 2 S206</p>	<p>日本の伝統芸能の、歴史と現状を理解し、世界 の様々な伝統芸能とも比較考察できるように する。</p>	<p>【内容】歌舞伎、能、人形浄瑠璃などの舞台芸能や、箏・三味線・尺八などの音楽を、映像や実際の 公演から学びます。まず、それぞれの芸能ジャンルの歴史と発展を概説します。そして現代の演 奏家や役者の公演やインタビューなどから、今日における伝統芸能の継承と発展について、参加者 で議論しながら考えていきます。歌舞伎鑑賞教室への参加や、箏・三味線の実技も行なう予定です。 他国の芸能や、旅行で見たり聴いたりした芸能とも比較考察して、発表し、レポートにまとめても らいます。</p> <p>【テキスト】特に定めません</p> <p>【評価方法】コメントフォーム 30% (3点×10回)、発表30%、レポート40%</p>
<p>日本理解 E (人文)</p>	<p>高崎 恵 (たかさき めぐみ)</p>	<p>水 1 N202</p>	<p>(1) 日本の宗教の歴史を理解する (2) 日本で見られる宗教の特徴を理解する (3) 現代日本の宗教事情について知見を広め、 自分なりの意見を持つ。</p>	<p>【内容】宗教意識調査では、日本人の大多数が自分を無宗教だと考えていると報告されています。 しかし日本社会の実態を見てみると、日本は日本人自身が考えているよりも宗教と緊密に結びつい ています。日本国内の十大コンビニエンス・ストアの店舗数は合計 5 万店代ですが、仏教寺院数は 7 万 5000 を上回っています。キリスト教信者は総人口のわずか 1%程度ですが、キリスト教結婚式 は人気があり、近現代日本の教育、福祉、医療においてキリスト教は大きな影響を及ぼしています。 皇室報道や靖国問題など、神道と結びつく事柄は日本のニュースで繰り返し報道され、四国遍路等 の宗教行為は観光と結びついて人びとの日常生活にとけこんでいます。妖怪や幽霊など非日常的な 存在は、アニメやゲームなどの大衆文化に頻出もし、東日本大震災の被災地では幽霊目撃談が数多 く語られています。</p> <p>この授業では、まず日本における宗教の歴史と、日本で見られる宗教の特徴を紹介し、日本の社 会における宗教のあり方について皆さんとともに考えます。</p> <p>平常点と個別研究で成績評価を行ないます。平常点は授業参加と授業で行う小テストで評価し、 個別研究は、個々に関心のあるテーマについて短い発表をしてレポートにまとめていただきます。</p> <p>【テキスト】特に定めません。【評価方法】小テスト 50%、発表とレポート 50%。</p>

	日本理解 G (自然)	竹本弘幸 (たけもと ひろゆき)	木 2 N202	日本の暮らしがどのような自然環境の下で育まれ、成立してきたのか現状を認識すること、自身が将来生活するであろう居住地においても、地域の自然を理解し、関連する問題の解決に取り組める基本的姿勢が身に付けられることを到達目標とします。	<p>【内容】私たちが生活する南北 3000km に及ぶ日本列島の成り立ちから始まり、そこに暮らす人と動植物・山・川・海・大気と衣食住（社会的共通資本など）の係りを視野に入れた多様な視点で、北は北海道地方より南は九州・沖縄地方の自然（地学や考古学）とくらしを紹介し、「日本の自然」への理解を深めていきたい。特に、環境変動の記録である自然史の変遷で起きる災害とこれを認識できないことで引き起こされた人的災害・被害の拡大について紹介する。関東地方では、武蔵野台地の自然をとりまく問題の一つとして、通学路周辺で観察できる事例を紹介したい。日本列島のもつ多様な自然環境について理解を深めるため、ビデオや写真などを用いて授業をすすめていく。</p> <p>【テキスト】特に定めません。参考図書として、貝塚ほか編集 日本の自然（全8巻）火山と地震の国・日本の山ほか 岩波書店。千葉達朗編「赤色立体地図でみる日本の凸凹」技術評論社。「風土記日本（全7巻）」平凡社。【成績評価】テスト（50%）、レポート（50%）</p>
--	----------------	---------------------	-------------	---	---

*「日本理解 B・D・F・H」は、秋学期に開講します。「日本理解」の授業内容は、「留学生センターホームページ」からも見られます。

多 文 化 共 修 科 目 **	多文化共修科目 A (異文化理解とコミュニケーション)	岡 智之 (おか ともゆき)	木 1 N313	多文化共修科目は、日本人学生と留学生をはじめとする様々な文化的背景を持つ学生が、授業という場でお互いに学び交流しながら、新しい気づきを生み出す場です。多文化共修科目 A 「異文化理解とコミュニケーション」では、異文化に関する理解を深めるとともに、多様な文化を持つ学生の議論や協働学習を通して、多種多様な人々と対等にコミュニケーションを取ることができる能力を高めることを目的とします。	<p>【内容】異文化コミュニケーションや多文化社会に関する問題を、留学生など多様な学生との議論・交流を通して学ぶ。グループで多文化社会の問題解決を目指すプロジェクトを企画し、発表し、報告書としてまとめる。1. オリエンテーション、2. 異文化との出会い、3. アイデンティティ、4. 在日外国人問題、5. 在日コリアン問題、6. 自分の文化を語る 1（中間発表）、7. 自分の文化を語る 2（中間発表）、8. スタディツアー、9. ろう文化と手話（ゲストトーク）、10. プロジェクト構想とグループ作り、11. プロジェクト準備と中間報告、12, 13, 14. 最終発表。15. まとめ。課外活動（外国人学校訪問など）</p> <p>【テキスト】特に定めません。</p> <p>【評価方法】平常点 30%（授業の最後にコメント用紙提出）、課外活動 10%（感想文を含む）、発表 30%（中間 10%、最終 20%）、レポート 30%。（中間 10%、最終 20%）</p>
	多文化共修科目 C (世界の言語と文化)	斎藤純男 (さいとう よしお)	月 1 N313	さまざまな文化的背景を持つ学生（留学生、日本人学生）が交流しながら世界の言語と文化について学び、互いの議論や協働学習を通して、言語と文化に関する知識を得るとともに多様な考え方に触れて視野を広げることを目標とします。	<p>【内容】言語圏別に留学生・日本人学生混在のいくつかのグループに分かれ、与えられたテーマについて担当の言語圏について調べて発表するとともに、他の言語圏についての発表を聞き、互いに討論しながら世界の言語と文化について総合的に考える。</p> <p>【テキスト】使用しない</p> <p>【評価方法】出席 50%、授業への取り組み（発表を含む） 50%</p>

**「多文化共修科目 B・D」は、秋学期に開講します。シラバスは「大学ホームページ>学内ネットワーク>シラバス検索」でも見られます。